

令和2年度 連携研究スキームによる研究（委託研究課題）
研究成果等概要報告書

		課題番号	20353771
研究テーマ名	超高齢社会における社会・健康問題の解決に資する学際的研究		
委託研究課題名	成熟社会における食の価値に関する学際的研究		
研究実施期間（西暦）	2020年度～2022年度（3年間）		
中核機関・研究総括者	国立大学法人東京大学 中嶋 康博		

1 研究の進捗状況等

新型コロナウイルスの感染拡大が予想以上に拡大したために、大学構内の立ち入りも制限され、現地への出張もできなかった。そのために研究活動はオンラインで実施できるものに限られ、WEB調査の実施と、コロナ禍が緩和した際に現地での研究活動再開に備えた準備に注力することとした。

② 「食の価値」仮説の理論的検討

持続可能な食をめぐる議論を中心にした文献調査を実施した。また、この理論の裏づけをするための消費者グループインタビューを実施した。

② 脳科学視点からの「食の価値」情報の把握

「食の価値」(品質、健康、倫理)要素を検討するために、どのような具体的な項目を取り上げるべきかを経済・心理学研究班と検討を行った。そのことを踏まえて、香りに対する脳活動を計測する上での予備的実験を行った。

③ 経済・心理学視点からの「食の価値」情報の把握

「食の価値」主要3要素の仮説を検証するために、「食の価値」要素の変数を対象にした消費者WEBアンケート調査を行った。また倫理要素を中心に、どのような用語や対象が想定されるか、網羅的に探索するためのWEB調査も実施した。いずれもコロナ禍のために実査が遅れたために、詳細な分析は次年度の前半に行うことにした。

④ 脳科学視点からの「食の価値」の基準化・表現法の開発

2020年度は研究活動の計画はなかった。

⑤ 経済・心理学視点からの「食の価値」の基準化・表現法の開発

コロナ禍のために、現地に生産・環境情報を収集するフィールドサーバーを設置できなかった。そこで、次年度に現地での活動を効果的に進めるための準備として、東京大学内の実験圃場にフィールドサーバーを設置して、モニター手法と計測パラメーターの検討をすることとした。現地での 360 度カメラによる画像収集・編集もできなかったのも、その操作法等の事前習得に努めた。アドバイザリーボードメンバーとの意見交換は、WEB 調査の分析結果、フィールドサーバーの運営結果をもとに行うことを想定していたので、次年度に準備ができてから実施することにした。

⑥ 品質評価学視点からの「食の価値」の基準化・表現法の開発

2020 年度は研究活動の計画はなかった。